17　二重目的語構文に現れるthat節

that節を直接目的語とする英語の二重目的語構文が2つの型から成ることが**統率・束縛理論（Government and Binding Theory）**においてStowell（1981）により示された。

tell, ask, showなどの動詞類（tell型）の間接目的語は動詞に編入され，その複合動詞に隣接するthat節は格付与される位置に生ずるとされる（(1) 参照）。

（1）Louise told [me] [that Denny was mean to her].

動詞による格付与が，that節の話題化（topicalization）（2）を可能とし，that節内の目的語のみでなく主語のwh移動も可能とする（(3) 参照）（**空範疇原理（empty category principle）**）。

（2）[That Denny was mean to her], Louise has told me—already.

（3）$[\text{Who}]_i$ did Louise tell you $[[e]_i$ [$[e]_i$ was mean to her]]?

一方convince, persuade, advise, remindなどの動詞類（4）（convince型）は（形容詞と等しく）格付与をすることなくthat節に主題役割を与え，前置詞を介して名詞句の目的語を取る（(5) 参照）。

（4）Carol convinced [Dan] [that she didn't want a cat].

（5）Carol convinced Dan of [her lack of interest in a car].

動詞はthat節に格付与を行わないので，tell型構文とは逆にthat節の話題化（6），that節内の主語のwh移動（7）は不可能となる。

（6）*[That his hamburgers were worth buying], Kevin persuaded Roger.

（7）*$[\text{Who}]_i$ did Carol convince Dan $[[e]_i$ [$[e]_i$ didn't want a cat]]?

いずれの型の動詞類もthat節に主題役割を付与するので，補文化辞thatは省略可能である。

（8）Louise told me [[e] Denny was mean to her].

（9）Carol convinced Dan [[e] [she didn't want a cat]].

Stowell（1981）により指摘された事実は，**極小主義（Minimalism）**の枠組みにおいてBošković and Lasnik（2003）により再分析され，convince型のthat節からの主語のwh移動（7）が不可能であるのに対し，目的語（10），および付加語（11）のwh移動が可能であるという事実の説明が試みられた。

（10）What_i did Carol convince Dan [she didn't want t_i]?

（Bošković and Lasnik 2003: 542）

（11）How$_i$ did Carol convince Dan [Mary fix the car t_i]?　（ibid.）

一方，den Dikken（2018）はconvince型に現れるthat節はより強い島の性質を持つと見做し，所謂二重目的語構文であるtell型構文とは異なる構造（12）をconvince型の構文に対し提案する。

（12）[$_{vP}$ v [$_{VP}$ him [$_{V'}$ convince [Pred（*of）[that S]]]]]

（12）において主節vは空の主要部Predを主要部とする**小節（small clause）**と一致操作を結ぶが，Predはthat節とは一致操作を結ばないのでthat節は絶対的な島（absolute island）となる。（6）の非文性はPredが話題化の空所を認可出来ないことに帰される。また，（12）において主節動詞はthat節と一致操作を結ばないため，tell型の場合とは異なりthat節の受動化は不可能となる（（13）参照）。

（13）*That Islamic State posed a serious threat was convinced/persuaded/reminded people.　（den Dikken 2018: 321）

（11）に関しては，主節内でのhowの解釈が優位であることを指摘し，that節内からの付加語のwh移動は生じていないとする。従って，that節内での解釈が優位である（14）は容認性が低いと指摘する。

（14）#How did they convince him that the letter was worded?　（ibid.: 316）

convince型のthat節の島の性質は（7）の非文性を説明する。（10）の文法性が問題として残るが，（10）は目的語のwh移動を経ずに派生可能であるとされる。主節の要素が付加部の島のPROの主語を統御（control）出来るように，主節には主節内のwh句連鎖があり，そのwh句がthat節内のPROのA-bar連鎖を統御し認可するとされる（wh-control（wh統御））。一方，PROは項であるので（14）においてhowがthat節内のPROのA-bar連鎖を統御することは出来ないとされる。

二つの型の二重目的語構文の統語上の相違を考察するためには，convince型のthat節の統語的な「島」としての性質を更に検証する必要がある。

（小林　桂一郎）